

日本オペレーションズ・リサーチ学会昭和34年度総会記事

昭和33年度事業報告および決算報告並びに昭和34年度事業計画および予算案につき下記の報告通り承認された。

1) 昭和33年度事業報告

1. 本会は、昭和33年4月1日以降必要に応じて次の会合を催し会務を処理した。
理事会 8回、評議員会 2回
2. 昭和33年度における主な事業は次の通りである。
 - ① 総会および第3回研究発表会を、昭和33年4月19日、20日の両日、東京大学において開催した。なお、4月21日には有隣電機精機株式会社、日本鉱業株式会社、電々公社通信研究所において、計算機を中心とした見学会を行なつた。
 - ② 第4回研究発表会を、昭和33年11月16日、17日の両日、下関商業短期大学において開催した。
 - ③ 学会誌の発行
J. Op. Res. Japan は、Vol. 1. No. 4, Vol. 2 No. 1 の2冊を発行、経営科学は、第2巻第2号、第2巻第3・4合併号の2冊を発行した。
3. 学会誌印刷部数および配布状況

| | |
|-------------|--------|
| 発行部数 | 1,500部 |
| 会員配布および交換寄贈 | 824部 |

4. 現在会員数

| | |
|------|---------------------|
| 通常会員 | 668名 |
| 賛助会員 | 31社 (31口) (新規加入16口) |

5. 支部設置準備

関西支部および北海道支部設立準備委員会から、支部設置の希望が表明されたので、これに対して、本会から支部準則(案)を示し、目下両委員会により検討中である。

2) 昭和33年度決算報告

1. 昭和34年3月27日開催された第7回理事会で、昭和33~34会計年度の会計事項の処理について、下記の決定があつたので、当日報告の基礎となつた昭和34年3月18日現在に対し、その後同年3月31日までに至る会計年度内の収支による加減を合

計して、収支決算並びに貸借対照表を作成する。

2. 未収会費の件

昭和34年3月18日現在未収会費は、

| | |
|--------------|----------|
| 昭和32~33会計年度分 | 239,600円 |
| 昭和33~34会計年度分 | 484,800円 |
| 計 | 724,400円 |

以上の内容を検討し、昭和32~33会計年度、昭和33~34会計年度にわたり、入会金、会費などを全然納めていないものは除籍し、その合計額を未収会費処理費として損失に計上する。

3. 未収会計上の件

学会誌は、昭和33~34会計年度英文誌1冊を発行しただけである。

第2冊目は目下編集中であるがこれは新会計年度に入ってから、至急3冊発行するものとし、1冊の発行費を100,000円と見積って、合計300,000円を未払金に計上しておく。

4. 本部事務費の件

日本科学技術連盟の事務協力に対しては、昭和33~34会計年度においても、これを500,000円に評価し収支のバランスを作る。

5. 支部会計の件

収支計算表 34. 3. 31

| 科 目 借 方 | 科 目 貸 方 |
|---------------|-----------|
| 大会費用(下関) | 62,560 |
| 〃 (東京) | 33,142 |
| 印 刷 費 | 341,655 |
| 〃 (未発行分) | 300,000 |
| 通 信 発 送 費 | 54,704 |
| 会 合 費 | 10,665 |
| 雑 費 | 6,825 |
| 支 部 費(北海道) | 23,400 |
| 未 収 会 費 处 理 費 | 147,000 |
| 事 務 費 | 500,000 |
| 小 計 | 1,479,951 |
| 次期への繰越 | 613,026 |
| 合 计 | 2,092,977 |
| | 合 计 |
| | 2,092,977 |

貸借対照表

| 科 目 借 方 | 科 目 貸 方 |
|---------------------|----------------|
| 現 金 15,997 | 前期から繰越 216,237 |
| 振替貯金小切手 払口座 626,640 | 未 払 金 395,774 |
| 振替貯金(元金) 5,000 | |
| 未 収 金 577,400 | |
| (32年度 92,600) | 小 計 612,011 |
| (33年度 484,800) | 次期への繰越 613,026 |
| 合 計 1,225,037 | 合 計 1,225,037 |

昭和33～34会計年度第1回理事会では、支部費、支部設置費等の議案が審議されたが、その後支部準則の制定がペンディングとなつたため、支部もしくは地方関係としては、本部会計において、具体的に関与できた収支のみを計上するにとどめる。

3) 昭和34年度事業計画

1. 研究発表会

研究発表会を春秋2回開催する。

春は4月東京において総会と同時期を行い、秋は地方において行う。

2. 刊行物

J. Op. Res. Japan および経営科学を、それぞれ年2回発行する。

3. 海外との交流

- ① 欧文機関誌の海外文献との交換はかる。
- ② 海外より来訪するOR専門家との接触の機会をつくる。
- ③ 昭和35年度東京において開催予定のISI (国際統計協会) 大会、およびパリにおいて開催予定の国際OR会議に備え、特に海外との交流を緊密にする。

4. 本会の組織拡充

支部準則(案)の検討終了次第、関西、北海道支部を正式に設置するほか、賛助会員の獲得による組織拡充をはかる。

4) 昭和34年度予算

収 入

| | |
|------------|---------|
| 通常会費(660名) | 550,000 |
| 未 収 金 | 150,000 |
| 賛助会費 | 500,000 |

寄付収入

| | |
|-----------|-----------|
| 計 | 100,000 |
| 支 出 | |
| 刊 行 物 | 700,000 |
| 大 会 開 催 費 | 100,000 |
| 通 信 費 | 100,000 |
| 会 議 費 | 20,000 |
| 消 耗 品 費 | 50,000 |
| 支 部 費 | 100,000 |
| 事 務 委 託 費 | 200,000 |
| 雑 費 | 30,000 |
| 計 | 1,300,000 |

5) 昭和34年度役員について

総会、評議員会、理事会の決議により次の会員が、昭和34年度役員として選ばれた。

(五十音順)

会 長 厚母 庸二 豊羽鉱山(株)

副 会 長 小野木次郎 国鉄 施設局

〃 袖山喜久雄 東洋レーヨン(株)

常務理事

刊行物 宮沢 光一 東京大学経済学部

会 計 中原 獅平 古河電気工業(株)調査室

庶 務 朝尾 正 田辺製薬(株)生産部

〃 横山 勝義 国鉄 審議室

理 事 朝川 馬二 東京芝浦電気(株)生産部

〃 石川 馨 東京大学工学部応用化学科

〃 大西 定彦 (株)日立製作所

〃 木暮 正夫 東京工業大学生産工業教室

〃 後藤 正夫 行政管理庁統計基準局

〃 田村 市郎 関西学院大学経済学部

〃 高橋浩一郎 気象予報部

〃 宮崎 政義 電電公社 技師長室

監 事 小平 潔 (株)有終会

〃 松田 武彦 東京工業大学経済工学研究室

評 議 員 朝尾 正 ※

〃 朝川 馬二 ※

〃 厚母 庸二 ※

| | | | |
|----------|---------------------|---------------------|---------------------|
| 評議員 石川 馨 | ※ | 評議員 橋本元三郎 | 中小企業政治連盟 |
| // 弥永 昌吉 | 東京大学 理学部 | // 林 文彦 | 早稲田大学商学部 |
| // 植木 繁 | 古河電気工業(株) | // 東 秀彦 | 工業技術院標準部 |
| // 上田 輝雄 | 早稲田大学 | // 藤尾 太郎 | 住友金属工業(株) |
| // 宇野 利雄 | 東京都立大学 理学部 | // 前田 活郎 | 国鉄 技術研究所計画管理 研究室 |
| // 江崎 武 | 三菱石油(株) | // 増山元三郎 | 東京大学医学部物療内科医 局 |
| // 大西 定彦 | ※ | // 松浦 陽恵 | 航空研究所 |
| // 奥村誠次郎 | 日本鉱業(株)監理部 | // 松田 正一 | 早稲田大学生産研究所 |
| // 小野木次郎 | ※ | // 松田 武彦 | ※ |
| // 門川 清美 | 武田薬品工業(株)経理部 | // 水谷 一雄 | 神戸大学経済学部 |
| // 茅野 健 | 電電公社 経営調査室 | // 南川 利雄 | ※ |
| // 河田 龍夫 | 東京工業大学数学教室 | // 宮崎 政義 | ※ |
| // 河村 和男 | 慶應義塾大学 | // 宮沢 光一 | ※ |
| // 木田 経吉 | 東洋紡績(株)紡織技術研究 所 | // 村上 喜一 | 日本大学工学部工業経営学 科 |
| // 北川 敏男 | 九州大学理学部 | // 森口 繁一 | 東京大学工学部 |
| // 国沢 清典 | 東京工業大学 数学教室 | // 山内 二郎 | 慶應義塾大学管理工学部 |
| // 木暮 正夫 | ※ | // 山本 昌 | 日新製鋼(株) |
| // 古瀬 大六 | 小樽商科大学 | // 横山 勝義 | ※ |
| // 小平 潔 | ※ | // 横山 保 | 大阪大学 経済学部 |
| // 小林 正次 | 日本電気(株) | 幹 事 | |
| // 小柳 賢一 | 日本科学技術連盟 | 刊行物 | 竹内 啓 |
| // 近藤 次郎 | 東京大学工学部航空学科 | | 東京大学大学院 |
| // 後藤 正夫 | ※ | // 西田 俊夫 | 甲南大学理学部経管理学教 室 |
| // 楠木 義一 | 京都大学工学部応用物理学 科 | // 矢部 真 | 国鉄 工作局車両課 |
| // 城 憲三 | 大阪大学工学部精密工学科 | 会 計 | 平田 実 |
| // 関 和文 | 東洋紡績(株)技術部 | // 船戸 明 | (株)電通企画調査局調査第 三部 |
| // 関 英男 | 岩崎通信機(株)技術研究所 | 庶 務 | 景山 文藏 |
| // 袖山喜久雄 | ※ | | 国鉄 審議室 |
| // 高橋浩一郎 | ※ | // 水野 正道 | (株)綜合統計研究所 |
| // 高橋 秀俊 | 東京大学理学部物理学科 | // 森村 保美 | 東洋レーション(株)生産総務 部 |
| // 高宮 晋 | 一つ橋大学 | // 渡辺 浩 | 東京工業大学教学教室 |
| // 多田 和夫 | 防衛庁陸上幕僚監部庶務室 研究室 | (※印は前に記載してあることを示す。) | |
| // 田中星太郎 | 東洋紡績(株) | 刊行物関係役員 | (五十音順) |
| // 田村 市郎 | ※ | 刊行物担当 | |
| // 中西 虎雄 | 大阪大学経済学部 | 常務理事 | 宮沢 光一 東京大学経済学部 |
| // 中原 黙平 | ※ | 刊行物委員 | |
| // 丹羽徳治郎 | 日本生命保険(株)主計部 | (庶務担当) | 朝尾 正 田辺製薬(株)大阪工場 |
| // 野田 信夫 | 成ヶい大学 | 業務理事 | |
| | | 刊行物委員 | |

| | | |
|-------|-------|--------------------|
| 刊行物委員 | 国沢 清典 | 東京工業大学数学教室 |
| // | 近藤 次郎 | 東京大学工学部航空工学科 |
| // | 原野 秀永 | 東京芝浦電気(株) 製造部生産技術課 |
| (監事) | 松田 武彦 | 東京工業大学経営工学研究室 |
| 刊行物委員 | 増山元三郎 | 東京大学医学部物療内科医局 |
| // | 丸山儀四郎 | 九州大学数学教室 |
| // | 森口 繁一 | 東京大学工学部 |
| // | 横山 保 | 大阪大学経済学部 |
| 刊行物幹事 | 竹内 啓 | 東京大学経済学部大学院 |
| // | 西田 俊夫 | 甲南大学理学部経営理学教室 |
| // | 矢部 真 | 日本国有鉄道工作局車両課 |

日本オペレーションズ・リサーチ 学会関西支部の発足

前々から懸案となっていた関西支部発足について、去る6月20日を期して、発会式が挙げられた。当日は、午後1時半より開催、出席者約50名、仮議長に朝尾正氏を選び、支部発足までの経過報告を行ない、ついで、森村保美氏により別紙支部規約案を上提出全員一致で承認された。

最後に支部長選出に入り、議長一任となり、神戸大学水谷一雄氏を推薦し、全員一致の承認により決定した。

なお運営協議員には、支部長の委嘱により次の11名が選出された。

横山(阪大) 宮脇(阪大) 田村(関学) 西田(甲南大) 関(東洋紡) 森村(東レ) 門川(武田薬工) 森島(国鉄) 蒔田(規格協会) 正岡(毎日放送) 朝尾(田辺薬)

その後水谷支部長の挨拶があって、発会式は2時半に終了、ついで公開講演会として

2時半～3時半 ダイナミック・プログラミングについて 甲南大 西田俊夫

3時半～4時半 ビジネス・ゲーム知見

大阪大学 横山 保
が行われ、聴衆は約70名であった。

関西支部規約

(名称)

第1条 本支部は日本オペレーションズ・リサーチ学会関西支部と称する。

第2条 本支部の事務所は大阪市東区安土町2の1安土町野村ビル日本規格協会関西支部に置く。

(目的)

第3条 本支部は日本オペレーションズ・リサーチ学会(以下本部と称する)の目的を目的とする。

(事業)

第4条 本支部は関西会員のみを対象とするつきの事業を分担する。

オペレーションズ・リサーチに関する研究会、講演会の開催、図書文献の収集保存、印刷物の作成、配布。

(会員)

第5条 本支部はつきの地域に存在する本部会員全員を以って構成する。

地域は近畿、中国および四国地区とする。

(役員)

第6条 本支部にはつきの役員を置く。

(1) 支部長 1名

(2) 支部会計幹事 1名

(3) 支部運営協議員 若干名

第7条 支部長は支部総会において会員の互選により定める。

支部会計幹事および支部運営協議員は支部長が委嘱するものとする。

支部長の任期は原則として1年とする。但し再選を妨げない。

第8条 支部長は支部を代表し、支部の事務を総括し、支部会議を招集してその議長の任にあたる。

第9条 支部会計幹事は支部長の指揮の下に支部の会計を司る。

第10条 支部運営協議員は支部運営協議会を構成し支部運営事項を審議し支部事業を分担執行する。

(運営)

第11条 支部は本部の庶務、刊行物、会計に関する内規の適用を受ける。

(会計)

- 第12条 支部は本部からの交付金額を基礎として毎年その事業計画および予算案を作成し本部理事会および支部総会の承認を得なければならぬ。
- 第13条 支部は毎年度末に決算報告を作成し、本部の監査を受けねばならない。

(会議)

- 第14条 支部会議は支部総会および支部運営協議会とする。
- 第15条 支部総会は年1回これを開催する。
支部運営協議会が必要ありと認めた時および支部会員総数の5分の1以上が請求する時は臨時総会を招集することができる。
支部総会のつぎの事項を審議し決議事項は凡て本部に報告する。

- (1) 支部長の選出
- (2) 事業報告および収支予算
- (3) 事業報告および収支決算
- (4) 支部規約の作成変更

- 第16条 支部運営協議会は協議員の3分の1以上が必要と認めた場合に支部長が招集し、協議員の3分の2以上の出席を得て開催する。但し書面を以て他の出席協議員に委任したものは出席とみなす。

- 第17条 支部の会議における議決は特に定める場合を除き出席者の過半数の賛成による。
賛否同数の時は予め選出された議長がこれを

決し委任状による決議への参加を認める。

(会計年度)

- 第18条 本支部の会計年度は毎年4月1日より翌年の3月31日迄とする。
- (支部規約の変更)
- 第19条 この支部規約は支部総会で出席者の3分の2以上の賛成を得且つ本部理事会の承認を得て変更することが出来る。

(付則)

本支部規約は昭和34年6月20日より施行する。

1959年度秋季大会開催のお知らせ

本年度秋季大会をつぎのとおり開催しますから、御参加下さい。

1) 研究発表会

- イ. 期日 11月14日(土) 15日(日)
ロ. 会場 大阪大学 工学部

2) 懇親会

- イ. 期日 11月14日(土) 夕刻より
ロ. 会場 大阪市内(追ってお知らせします)
ハ. 会費 500円

出席の有無、研究発表などの申込は下記に御連絡下さい。

大阪市東区 安土町2ノ1 (安土町野村ビル)

日本規格協会関西支部内

日本オペレーションズ・リサーチ学会関西支部

編 集 後 記

ようやくここに本学会誌第3巻第2号をおとどけします。刊行物幹事諸兄の御努力にもかかわらず、このように発刊のおくれましたことを重々お詫び申上げます。出版になれなかったことも発刊のおくれた一つの理由でありますので、今後は順調に発行できるものと御期待頂きたいと存じます。

会員諸兄よりは、本学会活動の重点は会誌発行にあるのに、それがあまりおくれるようではとの叱りを受け、刊行物委員一同その責任の重大さを痛感いたしておる次第ですが、何分にも原稿なしでは編集の仕事もできませんので、会員諸兄の盛んな御投稿を改めてお願い申上げます。アンケートも同封いたしましたが、本会誌のより一層の発展のため、きたまない御意見をお寄せ頂きたいと存じます。なお、刊行物委員会の御指示もあり、文献抄録の頁を大幅に拡張することになりました。そのため十数名の方々に学会として執筆をお願いいたしました。本号はまだ充分軌道にのつておりませんが、今後、充実した文献抄録の欄を作ることができますよう期待しております。そのためには、会員諸兄からも文献抄録についての自由な御投稿、あるいは御指示、御援助をお願い申上げることはいうまでもありません。

本会誌のよりよき発展を祈ってやみません。

(宮沢 光一)